

生き方のいろいろ

1. エナガのひなの餌取り

繁殖時期の早いペアは4月中旬にはヒナを巣立たせますが、5月も下旬になると遅い繁殖と2回目の繁殖によるヒナが巣立ち、10羽程度の群れで賑やかに餌を取るようになります。

新緑の打吹山や打吹公園は、昆虫たちにとっても餌が豊富な季節です。エナガの群れは、決まったコースを巡回しているようで、天気であれば特定の時刻には同じ場所で出会います。枝にぶら下がったりしながら、枝や葉裏まで丁寧に調べているようです。カイガラムシのような小さいものならそのまま飲み



エナガ

込んでいますが、シャクトリムシなどガの幼虫を捕まえると、そのまま飲み込みません。必ず口ばしでくわえたまま枝に打ちつけ、ぐったりさせてから飲み込みます。この打ち付け行動は鳥に共通で、サギやカワセミが魚をとらえた場合にも見られます。「踊り食い」は好まないようです。

一羽が離れた樹に移動すると一斉に後に続きます。他の大きい体の鳥には見つけることのできない虫を、軽い体を活かして捕らえるところを観察できます。

2. ムヨウラン

漢字で書くと「無葉蘭」、文字どおり葉がないランの仲間ということです。全草が黒紫色をしていて、葉は痕跡的に茎に付いています。光合成をしなくなり、必要な栄養をキノコから得ている寄生ランで、5~6月頃に生殖のためだけに地上で花を咲かせます。日本には数種ありますが、打吹山で見られるものはホクリクムヨウランだと思っています。

光を必要としないため、打吹山のような薄暗い常緑広葉樹の林床に生え、意識して探さないと見つけることができないランです。特に天気の悪い日は暗くて見つけることは困難です。見つけるためにはムヨウランが寄生するチチタケやベニタケの生える場所を、夏から秋の間に覚えておくことが有効です。丈が伸びてくると見つけ易くなります。しかし、10cmくらいまでは順調に伸びてくれるのですが、その後にはワタアブラムシがつくことが多く、開花まで至る本数が減ってしまいます。最近はイノシシが踏みつけて折ってしまい、大きく育つものがさらに減少しています。



ホクリクムヨウランの蕾



ホクリクムヨウランの花

花弁も外側は薄い赤紫色ですが、内部は朱色で少し目立つようになります。しかし、多くのランのように内部が見えるほど開かず、地味なものです。毎年でなくても同じ場所に生えるので、一度見つけたら記憶しておきましょう。

落ち葉のたくさん溜まっているところによく出ますので、遊歩道の山側の落ち葉が溜まっているところが要注意です。

薄暗い林床に生える
ホクリクムヨウラン

ホクリクムヨウラン